

「平成21年度全国体力・運動能力，運動習慣等調査」に係る
本市における結果の考察と今後の対策

高松市教育委員会

1 全国体力・運動能力，運動習慣等調査の目的

- (1) 子どもの体力が低下している状況にかんがみ，国が全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより，子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し，その改善を図る。
- (2) 各教育委員会，学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力向上に係る施策の成果と課題を把握し，その改善を図るとともに，その取組を通じて，子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣，生活習慣，食習慣等を把握し，学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

～「平成21年度全国体力・運動能力，運動習慣等調査実施要領」（文部科学省）より抜粋～

2 高松市教育委員会としての方針

- (1) 児童生徒の体力や運動習慣，生活習慣，食習慣等の改善については，地域や家庭等の理解や協力を得ることが必要であると考え，本調査のうち，主な項目を公表する。
- (2) 毎年，全学年で実施している新体力テストの結果を各学校に周知することで，体力向上に役立っていることから，今回の調査結果も，運動習慣，生活習慣・食習慣等と体力を関連づける貴重な資料ととらえ，体育や健康に関する指導の改善に生かしていきたい。

3 調査対象者

小学校第5学年，中学校第2学年

※体調不良等で一部の項目でも実施できていない児童生徒を除く。

4 調査事項

(1) 児童生徒に対する調査

① 実技に関する調査

小・中学校各8種目

握力，上体起こし，長座体前屈，反復横とび，20mシャトルラン，50m走，立ち幅とび，ソフトボール投げ（小学生），ハンドボール投げ（中学生）

② 質問紙調査

運動習慣，生活習慣，食習慣等に関する質問紙調査

(2) 学校に対する質問紙調査

5 結果の考察（児童生徒に対する調査）

- (1) 実技に関する調査について
- (2) 運動習慣等調査について
- (3) 昨年度調査との比較

6 今後の対策

(1) 実技に関する調査から

① 小学校

体力テストの結果が低迷していたが、ここ数年で各校の取り組みを生かした「1校1運動」などの体力づくりの取組の成果が着実にでている学校も多く見られるようになってきていることから、今回の調査結果を大いに参考にし、引き続き、児童や教員が高い意識をもち、体力向上について取り組むよう指導していく。

③ 中学校

全国・県平均よりも運動をしっかりと行う者が多い反面、全く行わない者もやや多いといった二極化傾向を防止するために、体育活動が教育活動全体を通じて計画的、実践的に行われるよう、部活動まかせにならない取組などを検討し、実技研修会等を通して教員の資質の向上を図るとともに、各校で年間を通した指導計画の見直しを行うよう指導していく。

(2) 運動習慣等調査から

各校において、運動習慣や生活習慣等のデータを参考に、特に小学生の「一日の運動時間の確保」や、小・中学生の「朝食の摂取」、「睡眠時間の確保」「テレビやゲームの時間の計画性」等について、学校はもちろん、家庭の協力も得ながら体力づくりの推進と改善に、役立つものとなるようにする。また、「運動することが好き、得意である」「体育の授業が楽しい」という児童生徒が全国・県平均よりも高く、体育の授業が楽しい児童生徒ほど体力合計点が高いという傾向が見られることから、今後も教科体育の充実を図り、体力・運動能力の向上に努めていきたい。